平成28年9月1日現在	
世帯数：	861戸（−11）
人　口：	1576人（−14）
男　：	762人（−9）
女　：	814人（−5）

「中甲」誕生秘話②

～地域共有財産から生まれた中町の潤滑酒～

時代は変化してゆきます。その変化の中で、中町は改めてまちづくりや活性化を見つめ直す過渡期に入ったのだと思います。

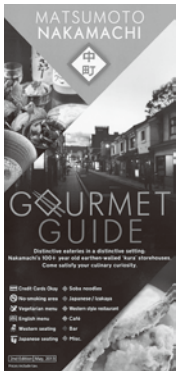
平成25年。先ずは今まで互いに顔を合わせる事も少なかったまちの構成員が、意見を交わせる場として「なかまち活性化委員会」を組織しました。日頃感じている小さな事から中町を挙げてのイベント企画まで、気軽にやり取りができる場が必要だったのです。

若いオーナー陣も加わり、中町を舞台に出会いの場を提供した「蔵コン」の開催や英語版グルメマップ作りを経て、「中町の名刺代わりになるような商品はないか？」と発案されたのが、「中甲」だったのです。

豊富な湧水地である中町の井戸は、まちの共有財産です。また、古くから続く祭事に欠かせないお神酒として、この「中甲」が重宝されるようにもなりました。

地域の共有財産を活かし、時間を共にし生み出したものが、まちと人とを円滑に結ぶ潤滑油となる事を期待して、「中甲」は産声をあげたのです。

続く



第一地区 行事あれこれ

8月9日 第一地区納涼祭

青山様・ぼんぼん練り歩き

「行事など情報をお寄せください。写真を掲載させていただきます。」

平成28年度 第一地区公民館委員一覧

順不同・敬称略

□運営委員会
石塚 栄一
羽山 義輝
犬飼 陽一
田内 正一
分部 由里
渋谷 隆也
太田 ますみ
百瀬 公基
真島 富男
藤澤 淳次
大谷 美紀子
平林 明子

□視聴覚委員会
宮島 幹治
長崎 俊夫
駒形 勝子
伊藤 善立
高山 晃
永井 昭
分部 由里
佐久間 まゆみ

□文化委員会
内藤 英昭
太田 ますみ
犬飼 陽一
深澤 健能
高宮 千恵子
高嶋 敏行
毛利 達生
渋谷 隆子
高井 増子
飯森 福太郎
太田 千代子

□館報委員会
横沢 敏
岩原 正勲
山内 敦子
田内 正一
伊藤 善立
白井 充子
山口 はるな
田中 健太郎

□体育委員会
輪湖 信久
真島 富男
渋谷 隆也
伊藤 昭子

□地区公民館職員
阿部 康之助
金井 健志
浅田 昌範
北川 美奈
佐久間 まゆみ

第一地区の

老舗をたずねて

第四十三回…
岡野薬品株式会社（博労町）

岡野薬品株式会社は、文化元年（１８０４年）、初代岡野庄平（平兵衛利次）が現在地（松本市）において屋号を「蔦屋（つたや）」と称し、薬種商を個人営業にて開設しました。その後、信州はもとより駿州（静岡）、甲州（山梨）及び上州（群馬）にも和漢薬の商いを拡大し、代を重ね取扱い品目も和洋薬品、写真材料、絵具、染料、工業薬品、洋酒、麦酒、缶詰、食品等に及ぶ総合問屋に発展しました。そして１８６９年（明治２年）、五代岡野庄平（和平）の時代（天保３年～大正３年）には屋号を現在の「⧄井」に変更し、「のれん分け」が活発に行われ、16軒の出店がありました。「⧄井」の屋号は、「栄行く宿のしるしはますゐどの　くめどもつきぬ　おかのましみず」の歌に由来し、商人の物差し「桝」と尽きることなく水の湧く「井戸」にあやかったものといわれております。

大正5年（1916年）の店舗

昭和18年太平洋戦争のため業務を縮小し、戦後は医薬品のみを扱うこととなり、昭和25年個人経営から株式会社岡野庄平商店に改組、昭和52年に社名を岡野薬品株式会社に変更しました。創業時から「信用を尊重する経営」「永続発展」「社員の成長」を経営理念として掲げ、１９６１年の伊那営業所開設を皮切りに、５ヶ所（長野、上田、佐久、諏訪、飯田）の営業所を開設し、１９９８年には山梨県へ進出を致しました。

そして現在、県内に７ヵ所、山梨県に１ヶ所、計８ヶ所で地元企業として、「信州・まつもと大歌舞伎」「松本山雅ＦＣ」等に協賛し、「地域医療と健康を守る」をテーマに総合商社として、地域の皆様の健康増進と地域経済の発展に貢献すべく邁進しております。

現在の社屋

九代岡野庄平

第一地区の文化・伝統 シリーズ❶

今や世界的な人気を博し、洋の東西を問わず多くの外国人観光客でにぎわう松本の街。その中でも、築城以来、お城下の中心として栄えてきた第一地区。廃藩置県後も、筑摩県の県庁所在地として、１９０２（明治35）年に松本駅が開業してからも、県下を代表する商都として、その役目を果たしてきました。

第一地区の街並みの中には、長い歴史に培われた多くの史跡が点在しています。

行き交う人々の息遣いが聞こえてくるような、街道や小路のあとを示す石碑。日本屈指の歴史を持つ開智学校の跡地や、情報事業により自ら利益を生みだすという、今では当たり前のことを先進的に行い、注目を浴びている松本商工会議所発祥の地。

暮らしに密着した、初荷やあめ市、三九郎、八坂祭り、迎え盆・送り盆など様々な行事が行われています。

第一地区の歴史を振り返り、次世代に引き継ぐものを共に考える機会としてご紹介して参ります。

電車通り

暑い夏も終わり、高く澄んだ空に赤トンボが涼し気に群れて飛ぶ季節になりました。スイスイ風を切って飛ぶその姿は、子供のころから何か懐かしい感情を覚えさせてくれます。

トンボの祖先が地球上に現れたのは３億年以上前とのこと。哺乳類もまだ生まれていなかった時代です。幾多の気候変動や、大絶滅時代も乗り越えて、現在は世界中におよそ５６００種類が生存しているのだそうです。

その太古からの使者・赤トンボ、本名アキアカネは、卵で冬を過ごして春にヤゴとなり、梅雨の頃、田んぼや池から這い出て羽化します。暑い夏は高い山の中に移動して過ごし、稲の実る頃に再び群れて里に下りてくるのだそうです。だから、秋に突然降って湧いたみたいに現れるんですね。

街中のナナカマドなんかにとまっているのを見たら、彼の祖先が飛び回っていた太古の空や、彼が夏を過ごしていた山の空気なんかを想い描いてみましょう。里に下りてくるのは、再び自分の生まれた田んぼや池に産卵して子孫を残すためです。どこの田んぼや池なのか。そんなこともちょっと気になりませんか。